

第三。これは機械で片付けようといふ方策である。ちよつと紐を引張れば、水がシヤア、シヤアと澤山流れ出て、其度毎に自然掃除が出来るといふ設備は、今日でも上流社會には行はれてゐるのだから、それが今一段も二段も三段も進みさへすれば、肥液も大した問題にはならないだらう。此の方策によれば、誰が肥液をするかといふ問題に對して、機械がするに答へればよい事になる。

然しそんな機械が實際出来たらうかといふ懸念も出る。相違ない。如何にも、全然人手を要しない完全な自動的設備が必ず近い中に出来ることは論合はれない。然し斯ういふ話がある。昔し歐羅巴では狭い畑突の中を掃除するには、さうしても子供でなくてはならないので、一般に貧乏人の子供がそれに使はれてゐた。それで時とするに、まだ火の氣の残つてゐる處に子供が押しこまれて、焼けて死んだりした事がある。そこで餘り殘酷だといふので、子供を畑突掃除に使ふ事が禁止された。然るに其の禁止の爲に畑突掃除が一切出来なくなつたか云ふに、決して

そのやうな事はない。畑突掃除の機械が發明されて、世間は少しも不自由をせず、そして子供の丸腰は再び見る事が出来なくなつた。人間を安い賃銀で使ふ事が出来て、其の方が機械を使ふより經濟だ云ふ場合には、其事に關する機械の發明は出来ない。よし出来ても一般には使用されないが、人間を使ふ事が六つかしくなり、或は人間では不經濟だと云ふ事になれば、今日の學問の力からすると、大抵の事を機械で間に合はせるだけの發明は出来るのである。

若し又、全然人手を要しない、完全な肥液自動機械は當分出来ないとしても、非常に便利な機械が出来て、それを使へば手も汚れず、厭な臭ひもせず、汚ない物も餘り見ずに済むといふ事になれば、肥液問題も最早や大してやかましく論議するがものはあるまい。

六

そこで肥液といふ特殊の問題は消失して、只だ職業の割當(若しくは擇り好み)